ISSN 1345-3580

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.16 No.10 October 2015

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

10

CONTENTS

- 巻頭言
  訪日外国人の増加
  ／深谷忠一 1
- 天理教教理史断章（97）
  近愛文書⑱ ―「おさしづ」割書考
  ／安井幹夫 2
- 『教祖伝』探究（16）
  「おふでさき」の内容
  ／深谷忠一 3
- 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」的世界観への未来像～（18）
  第２章 本居宣長『古事記伝』⑥
  ／井上昭夫 4
- 「元初まりの話」に登場する動物たち（７）
  「み」について②
  ／佐藤孝則 5
- 「おふでさき」の標石的用法（２）
  音韻について
  ／深谷耕治 6
- ライシテと天理教のフランス布教（４）
  ライシテの歴史①
  ／藤原理人 7
- 新宗教のブラジル伝道（30）
  日本の新宗教の組織的展開 ⑭
  ／山田政信 8
- 地域福祉を拓く ―新たな寄付文化の創造―（10）
  「天理ぴ～すぺ～すプロジェクト」の取り組み ③
  ／渡辺一城 9
- 遺跡からのメッセージ（４）
  遺跡がつなぐ過去と現在④
  ／桑原久男 10
- ヴァチカン便り（16）
  難民をたすけないのは殺人と同じ
  ／山口英雄 11
- 図書紹介（92）
  『イチョウの自然誌と文化史』
  ／佐藤孝則 12
- English Summary 13
- おやさと研究所ニュース 14

  第 282 回研究報告会（加藤匡人）／第 283 回研究報告会（堀内みどり）／第 285 回研究報告会（深谷耕治）／第４回研究所出前教学講座に出講（金子昭）／第 21 回世界宗教史会議（IAHR）に参加・発表／第 74 回日本宗教学会で発表／『グローカル天理』合本のご案内／平成 27 年度公開教学講座のご案内

巻頭言

訪日外国人の増加

おやさと研究所長　深谷忠一　*Chuichi Fukaya*

今年の訪日外国人数は、昨年より 500 万人多い 1,800 万人になると予想され、日本が観光立国として成功しているかのように言われています。しかし、実は、この年間 1,800 万人の数字は、フランスの 8,500 万人（以下全て世界銀行 2013 年のデータによる）、アメリカの 7,000 万人、スペインの 6,000 万人に比べるもなく、タイ、マレーシア、香港の 2,500 万人前後より少なくて、世界の 20 位にも入らないものなのです。

滞日 25 年のイギリス人で元ゴールドマン・サックスのアナリスト、現在は、国宝・重文の補修をする小西美術工藝社の会長兼社長であるデービッド・アトキンソンは、その著『新・観光立国論』（東洋経済新報社）の中で、おおよそ以下のように指摘しています。

「日本には十分な観光資源があるので、本来なら 2030 年を目指して訪日観光客を 8,200 万人位にすることは可能。しかし、問題は、日本人が観光資源として発信するべきものは何かを、正しく認識していないことである。

日本人の多くは、“国の知名度”“交通アクセス”“治安のよさ”などが、日本の“売り”になると考えているが、日本人の親切さや電車の発着時間の正確さだけを味わうために訪日するのは、よほどマニアックな人たちである。フランスやタイの治安は日本よりずっと劣るが、観光客数は断然に多い。アンデスの奥地、標高 2,280m の山の頂上にあるマチュ・ピチュへのアクセスは容易ではないが、毎年奈良市の２倍の観光客が訪れている。多くの観光客を呼べる理由は、“気候”“自然”“文化”“食事”の中の１つが突出しているか、あるいは、この４つの総合力が高レベルにあるかによる。」

アトキンソン氏は、また、「日本の観光庁などが掲げる“親日家の外国人を探し出す”とか、“日本文化に造詣の深い外国人留学生を育成する”などの案も、真っ当なマーケティングではない。“訪日の前に日本文化を深く学んでくるべし”などというのでは、外国から一般大衆を呼び込むことはできない」とも言っています（同書より要約）。

さて、“おぢばがえり”は観光とはその目的が違いますが、世界から大勢呼び入れたい点では同じです。そのためには、先ず、外国から日本の天理を訪れるのが、経済的・時間的にはもちろん、心理的にもどれほど大変なことかに思いを致す必要があります。

たとえば、日本人が、誰かに「ベトナムのカオダイ教の本部に、“天眼”と呼ばれる宇宙の至上神の象徴が奉られているから参拝をしましょう」と誘われて、自分がそこに行こうとするか？と、自らを相手の立場に置き換えて思案すれば、海外から“おぢばがえり”を決意する大変さが分かるでしょう。

“おぢばがえり”と他教の聖地への参拝を同列に論じられないのは天理教者には当然ですが、何も知らない海外の人々にとっては、ベトナムの田舎町であろうが日本の天理であろうが、他ではなくそこを訪れる確かな理由が必要なのです。

つまり、“人類の故郷がここにあるから、世界から皆が当然帰ってくる”と待っているだけではなく、遠路はるばる日本の天理を目指す目的・意義を、相手の立場に立って伝える。皆それぞれの立場で“おぢば”を恋しく思ってもらえるように、真実をつくしていくことが大事だと思う次第です。